



2023年2月にジャカルタで開催された、日本ASEAN友好協力50周年記念シンポジウム。紀谷大使（右から7人目）やカオ・キムホンASEAN事務総長（同8人目）らが出席した。

AMBASSADOR'S INTERVIEW

日本の強みを引き出して ASEANとの未来を描きたい

ASEAN日本政府代表部大使として、ASEANとの対話や連携を最前線で担う紀谷昌彦さん。
日本への評価や期待すること、日本とASEANの連携の可能性、大使として目指すことを聞いた。

——ASEAN日本政府代表部大使の役割について教えてください。

ASEANが経済や安全保障などで協力を強化する国・地域と定める「対話国」として、現在、日本を含む10か国とEUが認定されています。ASEAN事務局と対話国が緊密に連携するために、大使級のカウンターパートが必要との認識が高まり、各対話国がASEAN専任の大使を配置するようになりました。日本は各国に先駆けて2010年に大使を任命、私は6代目になります。

大使の役割は3つ。人脈をつくること、意見交換をすること、情報発信を行うことです。政治・経済分野のリーダーから学生まで、まず人間関係を築いていきます。そのうえで相手の言葉に耳を傾け、何が

起きているかを理解し、意見交換をします。情報発信も大事です。外国語でも日本語でも、普遍的な言葉を使いながら誠実に、そして「熱量」をもって発信していく必要があります。

——情報発信の機会に、特にどんなことを心がけていますか。

ASEAN向けの発信では、「日本と一緒に発展する将来図」を意識しています。環境やデジタル、保健や防災など日本に強みがある分野を、ASEANを中心とした枠組みのなかでどう発展させられるのかを語りかけていくのです。2022年11月の着任以来、さまざまなASEANの方々と意見交換をして強く感じるのは、ASEAN側が日本に対して強い信頼を抱いていること。一方で現在のASEANは“引っ張

りだこ”で、世界各国からも熱烈なラブコールを受けています。日本がワン・オブ・ゼムではなく、ASEANの将来にとって引き続き重要であることを発信する必要があります。

日本向けの発信の根底にあるのは、「日本自身が変わることの必要性」です。ASEANは日本を映す鏡です。ASEANと向き合って理解を深めることは、日本の強みをあらためて知り、足りないものをASEANに学ぶ機会となります。そのように自らをアップデートしたうえで、共通課題の解決への道を共創していこうと呼びかけることを心がけています。

——日本にとってのASEANの重要性についてどのようにお考えでしょうか。

1つ目は戦略的な要衝にあること。



上：国際交流基金が派遣する「日本語パートナーズ」が授業のアシスタントを務める、ジャカルタ近郊の高校を紀谷大使が訪問。右上：日本ASEAN友好協力50周年の特設サイトより。キャッチフレーズは「輝ける友情 輝ける機会」。

ASEAN地域は日本に近接していて、重要なシーレーンが通っています。2つ目は成長センターであること。若い世代に厚みがある約6.8億の人口を誇る巨大な消費市場であり、日本企業の製造拠点でもあります。3つ目はインド太平洋地域の多層的な協力枠組みの中心にあること。2019年には、海洋協力、連結性、SDGs、経済等、の4分野での協力の推進を掲げて「インド太平洋に関するASEANアウトLOOK (AOIP^{*1})」を発表しています。——そのASEAN諸国に対して、日本はどう関わっていくべきでしょうか。

ASEANがまず重視しているのは平和と安定の実現です。ロシアによるウクライナ侵略後、安全保障がこれまで以上にクローズアップされています。米中対立という大きな課題も指摘されています。ASEANはインド太平洋地域で平和と安定を促進する際に中心となる存在ですが、日本の役割も極めて大きい。日本が掲げる「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP^{*2})」は、AOIPと共鳴するビジョンであり、ASEANと連携して地域の平和と安定のために役割を果たしていく必要があります。そのうえで、ビジネスやイノベーション、課題解決や人的交流をともに手がけていきたいと考えています。

日本は今、ASEAN諸国との連携において最前線に立っています。大切なのは引

き続き先陣を切り続けていくことです。進行中の例でいうと、「日ASEAN統合基金 (JAIF^{*3})」があります。ASEAN共同体の深化や域内格差の是正を支援し、日ASEANの協力を促進するもので、今年、岸田文雄首相が「JAIF3.0」として1億ドルの新規拠出を発表しました。

また、「ASEAN防災人道支援調整センター (AHA Centre^{*4})」という、2011年に設立されたASEAN主体の防災センターがあります。センターを通じて防災分野における日本の知識を共有し、各国に広がっています。

——2023年は日本ASEAN友好協力50周年の節目で、さまざまなイベントや交流が進行中です。紀谷大使の今後の抱負を教えてください。

12月に日ASEAN友好協力50周年特別首脳会議が控えているほか、一連の会合



ASEAN日本政府代表部
公式サイト



日本ASEAN友好協力
50周年特設サイト



や記念事業に多くの人々の参画を得ていきたいと思います。また、日本の取り組みの「見える化」を目指していきます。大使に就任して感じるのは、本当に多くの日本人が長い期間にわたってASEANとの関係を築き、これからも頑張る気持ちにあふれていること。築いてきたものや行っていることをASEAN側にも日本国内にも広く伝えることで、横の連携を一層強化できると考えます。見える化により、さまざまな組織が協働する機会をつくっていきます。

日本とASEANが協力できる分野はたくさんありますが、特に重要なのがイノベーションやスタートアップ。ASEANとの協力の成果を他地域に応用し、世界にスケールアップしていくこともできるはずです。そういう点でもASEANは最適なパートナーだと考えています。



写真提供：ASEAN日本政府代表部

語る人

ASEAN 日本政府代表部 大使
紀谷昌彦さん KIYA Masahiko

1987年、外務省入省。アメリカ、バングラデシュ、ベルギーの日本国大使館勤務、駐南スーダン大使、アフリカ開発会議 (TICAD) 担当大使、在シドニー総領事などを経て、2022年11月より現職。ASEAN日本政府代表部の公式サイトで「ASEAN大使通信」を発表したりSNSを駆使するなど、国内外に向けて情報を発信中。